

2024年度 ヒューストン日本語補習校卒園・卒業式

3月15日、令和6年度第53回卒園・卒業・修了証書授与式が、ヒューストン日本語補習校にて執り行われました。幼稚部卒園生61名、小学部40名、中学部21名、高等部5名が、それぞれ卒園・卒業・修了証書を受け取りました。

前半は幼稚部。入学の頃よりも一回り大きく成長した子どもたちが、卒園証書を受け取る姿は立派でした。友達や先生と仲良く話す姿も見られ、この一年で、自分たちの気持ちを日本語でしっかり伝えられるようになっていましたね！

後半は小中高等部の卒業式。時にはアドリブも交えたユーモアにあふれる答辞には聞き入ってしまいました。COVID-19から始まった激動の小学校6年間、現地校の課題、課外活動も増えてくる中学校3年間で苦勞しながら乗り越えたことがわかる学校生活の振り返りでした。最後に披露された卒業生の歌は、6人編成のバンドによる伴奏とともに、未来への希望と互いへの友情を会場に響かせました。

卒業生、修了生の皆様、この度はご卒園・ご卒業・ご修了おめでとうございます。

また、午後からは体育館で離任式が行われました。補習校の先頭に立ち、その発展に大きく貢献された第16代校長岡林先生も、離任の挨拶をされ、卒業式の翌日に日本へご帰任されました。卒業式の日も、廊下ですれ違った児童と楽しそうに言葉を交わすお姿から、子どもたちに慕われていることを改めて感じました。三年間、本当にありがとうございました。
(ヒューストン日本語補習校運営委員 加賀谷宗之)



校長先生 離任挨拶



地平線から昇る太陽、小鳥のさえずり、広大な大地に力強く美しく咲き誇るブルーボネット、様々な生き物と共存し国籍や人種を問わず自由に日々の生活を楽しむ人々…ここヒューストンは、まさに緑豊かなダイバーシティでした。

ヒューストン日本語補習校は、現地校と補習校での学びを両立し、言語の二刀流、文化の二刀流を目指し、粘り強く学び続ける子ども達で溢れていました。

2022年度は、新型コロナウイルス蔓延防止対策が緩和され、通常のエデュケーション活動を取り戻そうとした時でした。行事ごとに発せられる「3年ぶり」という言葉が印象的でした。また、1年遅れの創立50周年の記念として在校生全員で記念写真を撮り、本校の歴史の重みを実感しました。

翌年度は、日系企業やこの地で活躍されている日本人の皆様のお力添えにより、「ヒューストンならではの体験学習」が小3以上の全学年で実施できることとなりました。この体験学習は、将来を担う子ども達に大きな影響を与える貴重な機会となっています。また、2年をかけて、サポート

教員と登録教員を配置することができ、これまで以上に個に応じた学習支援が可能となりました。

最終年度は、借用以来38年目にして、駐車場使用制限という難題が目の前に立ちはだかりました。これにより、本校は駐車場運用ガイドラインのみならず、年間教育計画までも見直すことを迫られました。しかし、この難題は本校の素晴らしさを再発見する機会となりました。子ども達のために一丸となって取り組む教職員。それを全面的に支えてくれる運営委員。PTA役員を中心として、学校運営に協力を惜しまない保護者。補習校運営最大ともいえるピンチは、私達教職員に「人間万事塞翁が馬」という言葉の意味を教えてくださいました。

これまで、本補習校を支えてくださった、日本国総領事館、ヒューストン商工会、補習校運営委員会、保護者をはじめとする関係者の皆様方に、この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

今後とも本補習校への変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ヒューストン日本語補習校に関わる全ての皆様方の益々のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

(ヒューストン日本語補習校校長 岡林健児)